

「市民の要求実現のために」 —本当の「子育て日本一」へ—

大垣市の小学校のクーラー設置率は2.3%

「大垣の小学校の教室にはクーラーがないんだって？」このお母さんが住む池田町はクーラー設置が100%らしく、びっくりされていました。大垣の小学校のクーラー設置率はナント2.1%！この夏、新聞報道等で、全国的にも100%取り付けの自治体がある一方、まったく進んでいない自治体の状況も明るみになりました。大垣市はほとんどすすんでいない自治体に入ります。

緊急の課題として認識されて

「私たちの子どもの頃は・・・」と、昔を思い起こします。「暑い暑いって言っている間に夏は終わるわよ」と言われて私も育てられたものです。子どもは夏は真っ黒になって外で遊ぶもの、クーラーはなくても大丈夫、といったイメージが強く残っていることと思います。昨年、大垣市の市民団体で小学校のクーラー設置のための署名を集めた時、「夏休みもすぐに来ることだし、

小学校のクーラーは特に必要とは思わないわ」という大人の声は少なくなかった気がします。しかし、今年のこの猛暑。愛知県豊田市の小学1年生が熱中症のため死亡するという大変痛ましい事故がありました。大人たちも外に出ると異様な息苦しい暑さを感じるこの夏、教室にクーラーのない小学校へ子どもを送り出すお母さんたちの不安は非常に大きかったことでしょう。愛知県のこの小学校にも教室にクーラーがありませんでした。

クーラー取付けの要請に参加して

私も、加盟する新日本婦人の会の方たちとともに大垣市教育委員会へクーラーの設置の要請に行ってきました。教育委員会には連日、小学校のクーラーに関する問い合わせや苦情がメールや電話で殺到していて対応に追われているとのことでした。「近日中に市民が安心できるコメントをいただきたい」とお願いをしたところ、ぜひそのよう

にしたいと言われ、後日連絡をくださる約束をこぎつけました。

市議会議員として、きめ細かな要望と国への予算要求

市民の不安な声をすぐに受け止めて、笹田議員と中田議員は、先の6月議会でエアコン問題で一般質問にたった市民ネットの岡田議員とともに、市長と教育長に対してエアコン設置の要望書を提出しました。事故の翌日というとても速い対応であったこと、そして、最高気温が35度以上の場合、児童に対し賢明で柔軟な教育現場の判断が行われるようきめ細かな対応を求めた点について非常に感銘をうけました。またさらに、エアコン設置のための補助金予算に消極的な国に対し、今年度の補正予算を組むように東京まで要請に行ったともお聞きました。市民のためにやれることはすぐにやる、すべてやるという姿を非常に頼もしく思いました。

